

平成24年度 宇都宮市自転車のまち推進協議会 議事録

日時 平成25年2月22日（金曜日）午後2時から午後4時まで

場所 宇都宮市役所14階 14A会議室

内容 1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 議事

平成24年度の主な取組と平成25年度の方向性について

5 自転車を取巻く状況等について（情報提供）

(1) 自転車を取巻く最近の状況

～安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン及び駐輪対策の現状と課題～

(2) 栃木県自転車利用環境検討会議の取組について

6 閉会

出席委員 別紙名簿参照

<主な意見・発言>

2 あいさつ（古池会長）

- ・ 一昨年の東日本大震災以降、日本国内での自転車に対する認識が変わりつつある。平成23年10月には、警察庁が良好な自転車交通秩序の実現に向けた総合対策について通達を出し、また、昨年11月には、国が安全で快適な自転車利用環境の創出に向けたガイドラインを策定しており、今後これらを踏まえた取組が進められ、ここ2、3年が日本にとっての自転車元年になるだろうと感じている。
- ・ 宇都宮市では、平成15年に「自転車利用・活用基本計画」を策定し、全国に先駆けて自転車施策を推進してきた。現在は、自転車のまちとして全国的に注目され、他都市からの行政視察も多いと聞いている。
- ・ 一方で、「ジャパンカップサイクルロードレース」のクリテリウムは、今年度3回目を開催したところであるが、他都市でも実施しようとする動きがあり、さいたま市では「ツールドフランス」を誘致しようとしていると聞いている。宇都宮市が自転車のまちとして今後も先駆けていくためには、この「自転車のまち推進計画」をさらに進めていく必要がある。
- ・ また、この推進計画は3年前に策定したものであるが、その後国のガイドラインが策定されてこともあり、見直しが必要となってくるのではないかと考えている。そういった意味では、この協議会の役割は大きい。本日は推進計画に基づく平成24年度の取組と平成25年度の方向性をメインテーマとして議論を深めていきたい。よろしくお願ひしたい。

4 議事

平成23年度の主な取組と平成24年度の方向性について

<古池会長>

- ・ 平成24年度の主な取組と平成25年度の方向性について、事務局から説明をお願いしたい。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

資料1「平成24年度の主な取組と平成25年度の方向性について」を説明

<古池会長>

- ・ ただいまの説明について質問等があればお願いしたい。
- ・ まず、私からお聞きするが、資料の最終ページを見ると、既に目標値を達成している施策もあり、もう少し目標値のハードルを上げるなど、今後計画を改定していく考えはあるのか。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 推進計画の計画期間は、平成23年度から平成27までの5年間となっており、来年度はその中間年度となる。ご指摘のとおり、目標を達成している施策もあり、目標値の見直しも含め、計画の改定を検討していきたい。

<大島委員>

- ・ 自転車走行空間の整備が推進されていることはとても良いことだと思う。この整備によって自転車の事故状況がどのように改善したのか、把握しているのか。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 交通事故の発生状況については、毎年、栃木県警より情報提供を受けており、整備後の年間データが提供される時期に合わせて検証していきたい。

<古池会長>

- ・ これまでの実施してきた自転車走行空間の整備はかなり効果があったと聞いている。自転車専用通行帯を整備した「白楊高通り」では、自転車の事故が大幅に減少し、宇都宮市が全国的に注目をされるようになったきっかけにもなっている。栃木県警の方から何かあれば補足いただきたい。

<石川委員（代理：鈴木企画調整係長）>

- ・ 個別路線の具体的なデータは即答できないが、青くカラー舗装した路線では、ドライバーは注意して走行し、自転車利用者も「ここを走行する」という認識を持っていただいていると感じている。まだまだ不十分な点はあるが、一定の整備効果があるものと考えており、効果はすぐ表れるとは限らないことから、一定期間継続して検証していく必要がある。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 前計画に基づき整備した「白楊高通り」では、平成20年の整備前と平成22年の整備後で比較すると、自転車に関連する事故が9件から2件に減少している。それらを踏まえ、この推進計画においても整備を推進してきたところであるが、新たに整備した路線の検証についても引き続き行っていきたい。

<河合委員>

- ・ 自転車専用通行帯を整備した「競輪場通り」をよく通行するが、夕方などの道路が渋滞しているときに通行帯をバイクが走行している。自転車専用通行帯はバイクも走行できるのか。

<石川委員（代理：鈴木企画調整係長）>

- ・ 自転車専用通行帯は自転車のみが走行できる通行帯であり、原付バイクは走行できない。
- ・ 警察庁から「自転車は原則車道を走行すべき」という明確な指針が示されており、栃木県警においても指導重点路線を設定するなど、自転車利用者に対する指導を重点的に進めているところである。
- ・ また、国、県、市がカラー舗装をしている路線は、自転車が走行すべきところが明確になっ

ており、指導する側としてもやりやすい。今後もカラー舗装がされている路線等で、指導、取り締まりを重点的に実施していきたい。

<古倉アドバイザー>

- ・ この推進計画の策定に関わらせていただいたが、目標の達成状況も良く、感謝したい。自転車走行空間の整備路線位置図を見ると、単発的な整備であったものが、整備が推進されたことにより、ネットワークになりつつあることがよくわかる。これからの取組に期待したい。
- ・ 一方で、他都市も自転車施策に力を入れてきている。国内だけでなく、世界レベルに達するつもりで取り組んでいただきたい。コペンハーゲンでは世界最高の自転車都市を打ち出しており、ぜひ高いレベルを目指して欲しい。
- ・ 推進計画では、自転車の交通分担率を向上させていくことチャレンジ目標として掲げているが、自転車の利用状況の変化など、把握しているデータがあれば教えて欲しい。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 推進計画のチャレンジ目標については、策定時に直近であった平成12年の国勢調査をもとに設定している。次の平成22年の調査で自転車の交通分担率が少し下がっているとの情報も入っているが、この推進計画は、平成22年に策定し、その後取組を進めているところであることから、今後も分担率の変化を把握していきたい。

<古池会長>

- ・ 次の国勢調査は平成32年になってしまう。それまで待つのではなく、交通量調査や毎年市が実施している意識調査などを活用しながら、自転車の利用状況や市民意識の変化を把握していくことを検討して欲しい。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 関連がある調査を実施する際に、自転車の利用状況や市民意識の変化などについてもデータを収集していくようなことも検討していきたい。

<柿沼委員（代理：砂川委員）>

- ・ これまでの自転車専用通行帯は交差点の前でなくなってしまい、どこを走行していいのかわからなかったが、国道4号線で取組を進めている青い矢印の表示は、交差点の中でも走行位置が明確になっており、安心して走ることができる。また、2段階右折をする自転車のために、交差点内に待機する場所もあり、非常に走りやすいと感じている。

<古池会長>

- ・ 国道4号線の取組については、この後、小路委員ご報告いただければと思う。

<河合委員>

- ・ 市が進めている「ネットワーク型コンパクトシティ」やLRT整備と自転車との関係性はどうなっているのか。LRTから降りた後、その先は何で移動するのも大切であり、駐輪場の整備などはとても重要だと感じているが、整備を推進していく考えはあるのか。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 「ネットワーク型コンパクトシティ」を進めていく中で、交通ネットワークを整備していくことがとても重要であると考えている。主要な交通結節点である鉄道駅やバス停の付近に駐輪場を整備していくことは、公共交通と自転車との連携強化に効果的であることから、適切な場所に配置できるよう整備を推進していきたい。

<古池会長>

- ・ バス停から先は何で移動するのかということはとても重要であり、特に、市外から来た人に大きな問題である。LRTを導入した富山市では、電停の近くにパリの「ヴェリブ」のようなレンタサイクルが整備されている。この推進計画には位置付けられていないが、LRTを整備した後は、そのような取組も検討していく必要がある。

<船木委員>

- ・ 自転車走行空間の整備が進んでいることをもっとPRすべきではないか。自転車利用者だけでなく、ドライバーなどにも広くPRし、中・高校生等に対しては、視覚的にPRしていくことが必要ではないか。

<古池会長>

- ・ 整備後のPRについては、今回の国道4号の試験実施において様々な取組を行っている。ドライバーや自転車利用者への周知など、議事後、小路委員から情報提供いただけると思う。

<小路委員>

- ・ 古池会長からは目標値の上方修正、古倉先生からも世界レベルの取組を目指してといったお話があったが、当面やるべきこととして、自動車から自転車への転換に向けて、自動車交通が多い路線において自転車走行空間の整備を推進するなど、加速度を上げて、まちの中の交通体系を変えていくことが必要であると考えている。
- ・ これまで国道4号線は自動車を中心に考えられた道路であったが、今後は都市内の道路として自動車よりも自転車の走行環境を高めていきたいと考えており、今回、自転車走行位置の明示を行った箇所は、この推進計画の自転車ネットワーク路線になっていないことから追加して欲しい。また、国のガイドラインが策定されたことも受けて、自転車ネットワーク全体の見直しも必要だと思っている。

<古池会長>

- ・ 大変心強いお話である。この推進計画は市の計画であるが、必要な路線は国道や県道でも積極的にネットワークに加えていただきたい。
- ・ 栃木県は、国、県、県警、そして市が連携して自転車走行空間の整備に取り組んでいる。利用者にとっては国道も県道も関係ない。利用者の立場に立った取組を今後も継続して欲しい。

<加藤委員>

- ・ この計画を推進していったとき、LRT後に整合性が取れなくなるようなことはないのか。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 現在本市では、市のまちづくりの骨格となる第5次総合計画の改定を行っているところである。総合計画には「ネットワーク型コンパクトシティ」の基本的な考え方が位置付けられており、また、改定にあたっては、自転車を新たな柱として大きく打ち出そうとしている。
- ・ 総合計画の改定を踏まえ変えるべきものは変えていく。LRTと自転車との関係性も踏まえながら、この計画についても中間年度で見直しを行うなど、連携を図っていきたい。

<加藤委員>

- ・ 富山市には宇都宮市と同様に競輪場があり、自転車の利用も盛んであることから、とても参考になるのではないかと思う。

<事務局（宇都宮市交通政策課）>

- ・ 富山市はLRTも含め、交通施策の先進都市であることから状況は把握している。LRTの

電停の近くにレンタサイクルの貸出ポートが整備されているなど、自転車との連携も図られている。今後も参考にしていきたい。

<古池会長>

- ・ では、本日のご意見を踏まえながら、平成25年度についても引き続き、推進計画に基づく取組を推進して欲しい。また、平成25年度はこの計画の中間年度であり、新たな目標の設定やガイドラインを踏まえた計画の改定などもテーマになってくると思う。委員の皆様には今後もよろしく願いしたい。

平成24年度 宇都宮市自転車のまち推進協議会 出席者名簿

委員区分		所属・役職	氏名
学識経験者		宇都宮共和大学シティライフ学部教授	◎古池 弘隆
関係団体	自転車 業界	栃木県自転車軽自動車商業協同組合宇都宮支部長	島崎 庄二
		栃木県自転車競技連盟理事長	大島 研一
		NPO法人栃木スポーツコミッション理事	柿沼 章 (代理:砂川理事)
	利用者	栃木県バイコロジー運動推進協議会理事長	加藤 恒男
		宇都宮地区高等学校交通問題地域連絡協議会代表	杉本 学
	交通 事業者	社団法人栃木県バス協会業務部長	船木 孝男
	その他	宇都宮商工会議所常務理事	渡辺 政行
		スポーツドクター栃木県連絡協議会副会長	河合 寛
行政	国	国土交通省関東地方整備局宇都宮国道事務所長	小路 泰広
	栃木県	栃木県県土整備部交通政策課長	福田 晴康 (代理:古橋課長補佐)
		栃木県警察本部交通部交通規制課長	石川 二三男 (代理:鈴木企画調整係長)
	宇都宮市	宇都宮市総合政策部参事(交通担当)	中山 悦夫
		宇都宮市建設部次長	大島 守

◎：会長

アドバイザー	株式会社三井住友トラスト基礎研究所研究理事 (京都大学大学院・麗澤大学講師)	古倉 宗治
--------	---	-------